



# 全国における有機農業推進の現状

有機農業参入促進協議会

代表理事

千葉康伸

# 自己紹介

・ 出身地 神奈川県横浜市出身

・ 生年月日 1977年生まれ 45歳

経歴 大学卒業後、金融系の会社で社内SEを業とする

30歳でサラリーマンを辞めて農業の世界へ

2008年 2年間高知県にて研修(土佐自然塾・山下農園)

2010年 神奈川県愛川町にて新規就農

2013年 **NPO法人有機農業参入促進協議会理事就任**

2016年 アグリイノベーション大学校 専任講師

2018年 一般社団法人 次代の農と食をつくる会 代表

**NPO法人有機農業参入促進協議会 副代表**

食料・農業・農村政策審議会 果樹・有機部会 臨時委員

2019年 市立 丹波農の学校 特別顧問

2020年 さがみサステイナブルコミュニティ 代表

2021年 **NPO法人有機農業参入促進協議会 代表**

農林水産省 地球環境小委員会 専門委員

神奈川県農業経営士 認定

日本オーガニック会議 執行部

# 3つの情報提供

1. 神奈川県での新規就農での  
有機農業実践事例と担い手育成の現実
2. 有機農業参入促進協議会での  
全国的な有機農業推進の現状
3. 次代の農と食をつくる会での  
地域支援から見えた情報提供

# 3つの情報提供

1. 神奈川県での新規就農での有機農業実践事例と担い手育成の現実
2. 有機農業参入促進協議会での全国的な有機農業推進の現状
3. 次代の農と食をつくる会での地域支援から見えた情報提供

# 有機農業に参入するきっかけ

Q. なぜ農業をやろうと思ったのか？



Q. なぜ有機？

Q. 影響を与えた人



# 有機農業を実践して

Q 何を意識しているか



Q こだわり



# ライフワーク

社会貢献・自己実現

有機農業を広げる、社会への自分の役割

1. 現場から担い手を実際に増やしていく

2013年から研修生を受け入れ開始。

2015年愛川町にて1ha借りて新規就農

2022年研修生は6人、新規就農は15人

2. 国と連携して有機農業を普及させる

有機農業参入促進協議会 代表理事

次代の農と食をつくる会 代表理事

農林水産省 地球環境小委員会 専門委員

日本オーガニック会議 執行部

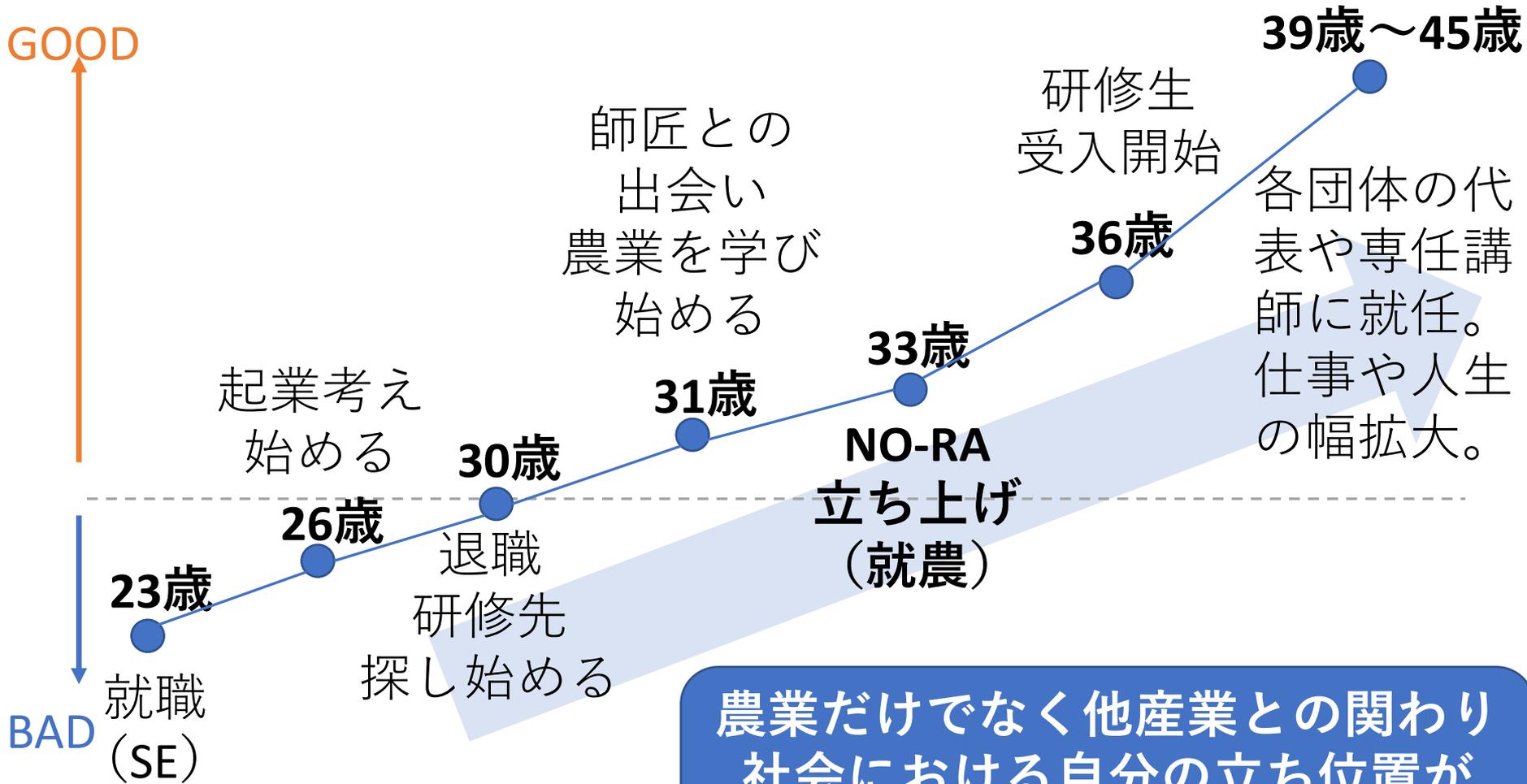
3. 仲間と連携し担い手を増やす

アグリイノベーション大学校 専任講師

市立 丹波農の学校 特別顧問

さがみサステイナブルコミュニティ 代表

# 就農への道のりと就農後

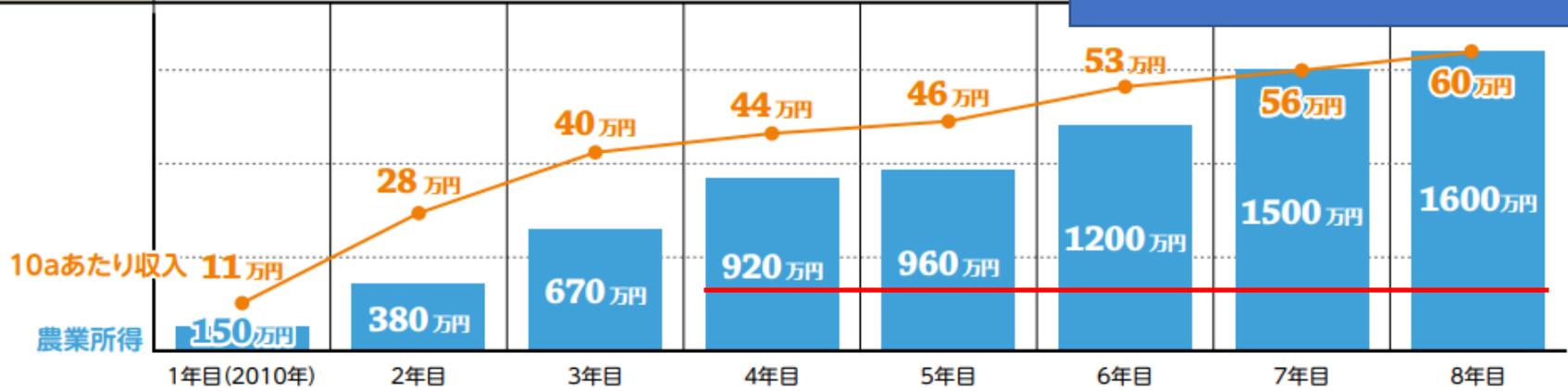


農業だけでなく他産業との関わり  
社会における自分の立ち位置が  
明確になり、自分の軸ができる

表1 就農後の取り組みと経営の実態

就農後年次	新規就農期		経営拡大期			経営展開期		
	1年目 (2010年)	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目
年齢(歳)	33	34	35	36	37	38	39	40
主な出来事	長男誕生			軽箱バンを増車	自家用車をハイブリッド車に買い換え		次男誕生 住宅と作業小屋 育苗ハウスを建設	軽箱バンを増車
農地(ha)	1.4	1.4	1.7	2.1	2.1	2.3	2.7	2.7
労働力(人)	2	2	2	3	3	3	3	5
研修生(人)				1	1	1	1	3
品目数	50	50	50	50	50			
栽培の特徴など		緑肥作物による土づくりを導入		防草シートの活用 研修生の受け入れ開始(給与支給)		研修生(2名)受け入れ		
有機農業推進の活動	有機農業参入促進協議会理事▶			AIC専任講師▶				

研修生一人受け入れる度に売り上げを300万円増やす



現状：前年度売上げ3,000万円 面積 5 ha(前年度4.5ha)



## NO-RA 農場紹介

**栽培面積**：約5ha

**労働力**：7人(本人含める)

**栽培方法**：有機無農薬栽培(昨年JAS取得)

**栽培品目**：年間約50品目の少量多品目(一部中量)

**販売先**：地域生協3社、スーパー1社、自然食品店3社、レストラン2店

**売上げ**：3,000万円(昨年4.5ha)

### 運営方針

- ・地産地消、適期適地適作を基本にお客様に旬をお届けするサービス業
- ・栽培・出荷レベルを落とさずキレイで美味しい野菜を提供できるよう
- ・緑肥主体の土づくりを心がける。
- ・新たな担い手を育てる場所と経営の両立を図り、仲間を増やし、次世代の農業を楽しい環境にすることを最大の目的とする。

# NO-RAでの有機農業



**みんなで作り上げてきた研修場所**

だれかの笑顔のために今日も畑へ



NO-RA

～農楽～

だれかの笑顔のために今日も畑へ



NO-RA

～農楽～

だれかの笑顔のために今日も畑へ



NO-RA

～農楽～

だれかの笑顔のために今日も畑へ



NO-RA

～農楽～



出典：農林水産省「農業センサス」「農業構造動態調査」よりminorasu編集部作成

	平成27年	28年	29年	30年	31年	令和2年	3年	4年
基幹的農業従事者	175.7	158.6	150.7	145.1	140.4	136.3	130.2	122.6
うち女性	75.1	65.6	61.9	58.6	56.2	54.1	51.2	48.0
うち65歳以上	114.0	103.1	100.1	98.7	97.9	94.9	90.5	86.0
平均年齢	67.1	66.8	66.6	66.6	66.8	67.8	67.9	...

**年平均5万人前後減少。2030年には90万人となる予測がある。**

# 3つの情報提供

1. 神奈川県での新規就農での  
有機農業実践事例と担い手育成の現実
2. **有機農業参入促進協議会での  
全国的な有機農業推進の現状**
3. 次代の農と食をつくる会での  
地域支援から見えた情報提供

●ポータルサイト「有機農業をはじめよう!」 <http://yuki-hajimeru.net/>

全国各地で開催するセミナーや研究会、実践講座の案内や有機農業の研修受入先・相談窓口・経営指標の情報などを掲載しています。



研修先  
講習会  
相談窓口  
経営指標  
の情報などを掲載!

# 有機農業参入促進協議会

- ・ 技術情報の共有
- ・ 研修受け入れ先情報
- ・ 相談窓口情報
- ・ 事例集
- ・ 経営指標

## 私の役目

新規就農事例としての声を各会議で発言・共有し次世代への橋渡し役として活動。代表として会をより社会に必要とされる存在にする。

## 公開セミナーの開催



## 実践講座の開催

**研修先情報**

有機栽培の研修ができる農家や施設を地域別に紹介します。

**経営指標**

有機農業で栽培している様々な作物の経営指標を紹介します。

**相談窓口**

有機農業について対応が可能な窓口を紹介します。

**実践事例集**

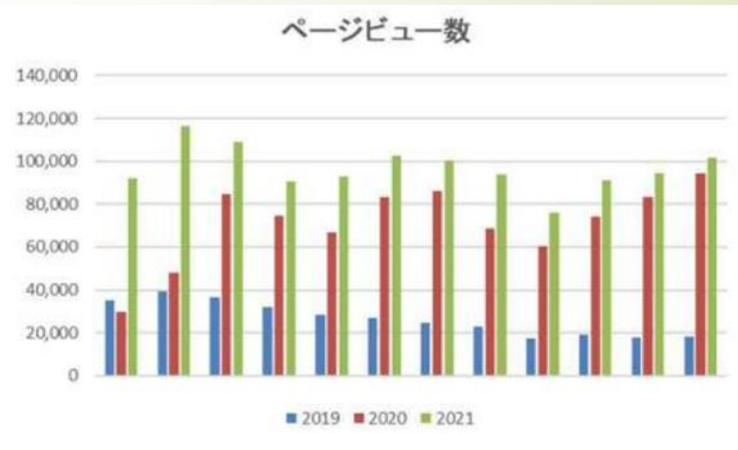
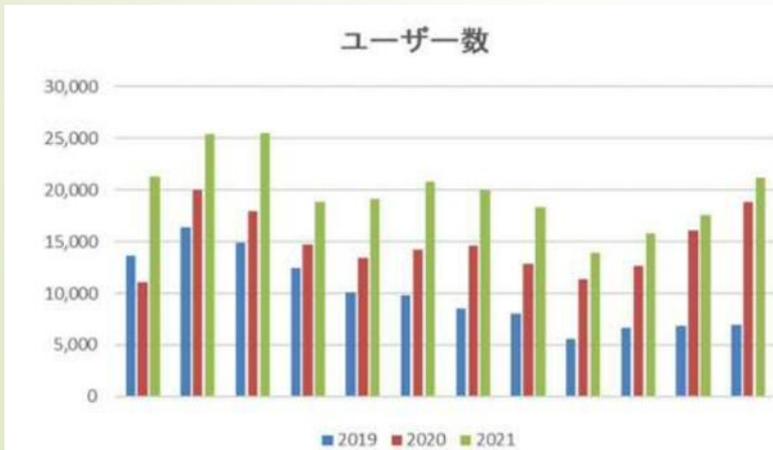
有機農業の実際について、現場の声を通してお届けします。

**コラム**

有機農業の理解を深める様々な読み物を掲載しています。

**ファーマーズマーケット**

有機農家が直接販売している/できる市場のご紹介です。



# 有機農業セミナーなどの開催

## 2022年

- 2/10,17,24 『有機農業口座～堆肥づくり・土づくり』
- 3/18 『美しくおいしい有機野菜を生産・販売するために』
- 4/16 会員との意見交換会
- 5/11,18 『基礎から学ぶ有機農業』
- 6/30 『緑肥作物を利用した土づくりを考える』
- 7/14 有機栽培現地ツアー（長野県佐久市・川上村）
- 10/19 『有機農業研究者会議2022』
- 10/29 『株式会社いかす有機栽培圃場現地見学会』
- 11/29 『有機育苗を考える』

## 予定

- 2023/2/25,26 『有機農業講座～堆肥づくり・土づくり』

# 有機農業セミナーなどの開催

## ➤ 第25回公開セミナー

「緑肥作物を利用した土づくりを考える」

6月30日(木)にオンラインで開催。  
有機農業の基本である土づくりのなかで、  
緑肥作物の利用した土づくりを取り上げる。



## ➤ 有機農業研究者会議2022

10月19日、農研機構中日本農業研究センター会議室 & オンラインにて、農研機構、日本有機農業学会と共同開催。

第1部では有機農業技術の横展開と販路の拡大への課題について、第2部では実践技術および最新技術を活用した雑草防除へのアプローチを紹介。

これから有機農業をはじめようとする方々に、技術面での支援を心がけていきます。

# オンライン新規就農者向け相談会

有機農業での新規就農を検討している方々に  
有参協の新規就農した理事が、経験と知恵を結集して相談  
に応じています。

## 有機圃場の現地見学会

有機農業での新規就農、転換参入を検討している方々に  
栽培圃場を見ていただき、生産者、参加者間の交流を通し  
て、実施への課題解決に繋げていただきます。

これから有機農業をはじめようとする方々の参入障壁である生産の現場を  
明らかにし、実施へのきっかけづくりに心がけています。

# 全国的な有機農業推進の課題

- 有機農業の価値の理解
- 様々な農法の整理
- 有機農家が必要としている研究
- 地域性を生かした技術の体系化  
(官民連携での土づくり・栽培技術支援)
- 教育との連携
- 経営指標データの拡充
- 地域有機物の資源循環
- 堆肥の質の向上 (畜産農家との連携)

# 3つの情報提供

1. 神奈川県での新規就農での  
有機農業実践事例と担い手育成の現実
2. 有機農業参入促進協議会での  
全国的な有機農業推進の現状
3. 次代の農と食をつくる会での  
地域支援から見えた情報提供



2023年1月20日

一般社団法人 次代の農と食をつくる会

代表理事 千葉康伸

## 他メンバー



**代表理事**

**千葉 康伸**

株式会社 農楽 代表取締役

**副代表理事**

**西辻 一真**

株式会社マイファーム代表取締役社長

**副代表理事**

**種藤 潤**

一般社団法人オーガニックヴィレッジジャパン事務局長

**理事**

**白土 卓志**

株式会社いかす 代表取締役社長

**理事**

**松本 直之**

松本自然農園・農Tube委員会

**監事**

**高橋 勉**

JONA(日本オーガニック&ナチュラルフーズ協会)理事長

**理事/事務局長**

**間宮俊賢**

国分寺カフェスロー（オーガニックカフェ）元店長

## 私たちについて

「農と食に関わる多様な人たちの  
ネットワーク、場、仕組をつくる」



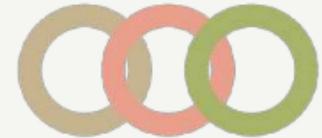
### 次代の農と食を語る会

農と食の次代をつくる  
キーパーソンとともに  
トークライブを毎月開  
催。会員を対象に交流  
企画やアーカイブ配信  
もおこないます。



### コンサルティング

有機農業を推進する自  
治体や産地、参入希望  
する法人などを対象に、  
有機農業の産地形成を  
包括的に支援していま  
す。



### 有機農業の日

- ・事務局運営
- ・ロゴマークの管理
- ・関連イベント開催
- ・キャンペーンの運営
- ・グッズ作成

### その他の実績

2016-18年度 生産・実需情報共有・調整システム構築支援事業／消費者・実需者等理解増進活動支援事業

2016年度 新規参入・定着等促進支援事業

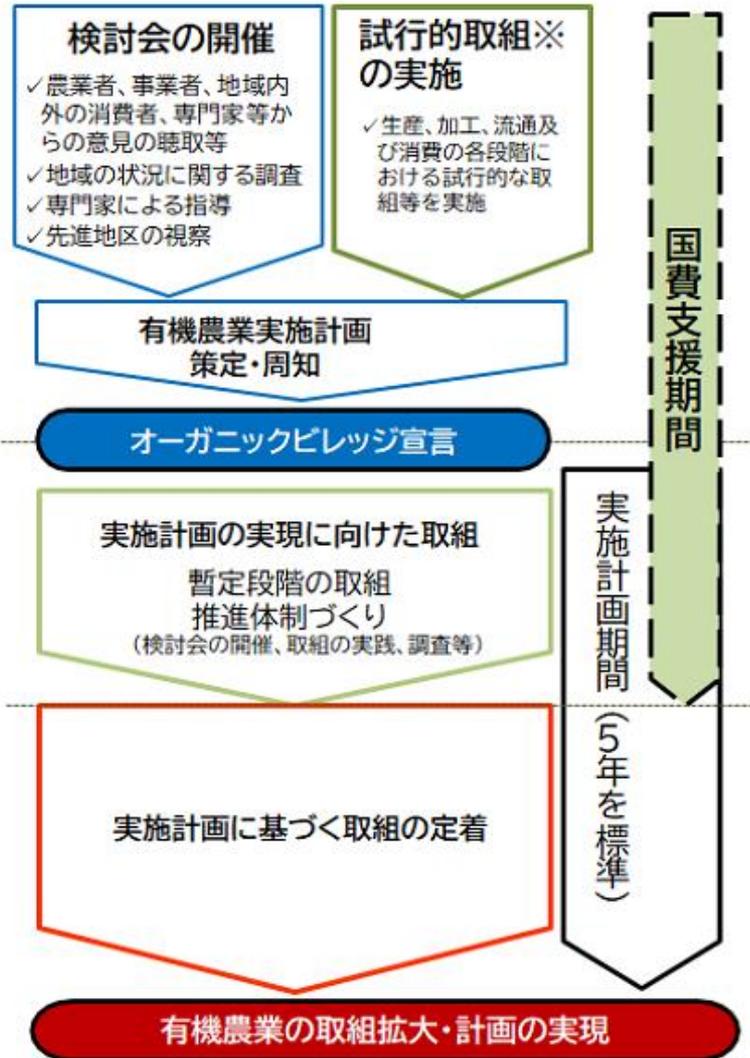
2019-21年度 オーガニックビジネス拡大支援事業（オーガニックプロデューサーを全国の「オーガニックビジ  
ネス実践拠点づくり事業」実施主体の協議会に派遣して、地域のオーガニックの成長と課題解決をサポート）

# YouTubeチャンネルで「オーガニックプロデューサーセミナー」多数配信中



# オーガニックビレッジ (有機農業産地づくり推進事業) とは何か

## ○ 事業の取組イメージ



## ※ 試行的な取組のイメージ

- 地域で栽培経験のない野菜品種の導入に向けた
    - ほ場借り上げ
    - 先進農家の指導の下、土づくりや播種、防除等の研修実施
    - 栽培技術講習の計画作成等
  - 地域の未利用有機質資源について
    - 賦存量調査
    - 収集方法等の検討・試行
    - 事業や堆肥化施設の概略設計
    - 少量の堆肥を試作し栽培試験を実施等
  - 流通の合理化に向けた
    - 出荷量等調査、集荷場所の借り上げ
    - 地域内集荷便の試験運行やアンケート、
    - 洗浄・梱包等の試行
    - 共同出荷ブランドの検討等
  - ほ場の団地化に向けた
    - 計画策定、説明会開催
    - 圃場の刈払い・抜根等の役務や必要な重機のレンタル
    - 土壌診断、緑肥での土壌改良試験
    - 有機認証機関によるほ場実施検査等
  - 地域外の事業者と連携し
    - 加工品の作成に向けた打合せ
    - 合理的な流通経路等の調整
    - 加工品の試作
    - 有機の特徴を伝える商品化の検討経費 等
  - 生産・出荷計画の調整会議開催
  - 有機農業の環境保全効果の理解を促す生物観察等の実証と効果調査
  - 有機食材を使った給食と食育の試行経費(食材費を含む) 等
  - マルシェの試行開催
  - チラシ作成、広報
  - 会場の借り上げ・案内等の作成
  - 有機農業の説明資料作成、当日説明員配置と効果調査 等
- その他それぞれ地域の状況に応じた取組が実施可能

# オーガニックビレッジ (有機農業産地づくり推進事業) とは何か

## ○ 事業の取組イメージ

## ※ 試行的な取組のイメージ

検討会の開催

試行的取組※

▶ 地域で栽培経験のない野菜品種

▶ 地域の未利用有機質資源について

地域でのオーガニックの生産・消費の拡大の支援の際に必要な財源を農水省が交付金として提供しているもの  
手を挙げることができるのは行政のみ  
例)

- ・ マルシェ
- ・ 有機農産物のECサイト
- ・ 学校給食の有機化
- ・ 生産者グループの立ち上げ
- ・ 栽培講習会
- ・ 堆肥利用の仕組み化
- ・ 集出荷環境の改善
- ・ 量販店の有機コーナー設置  
など

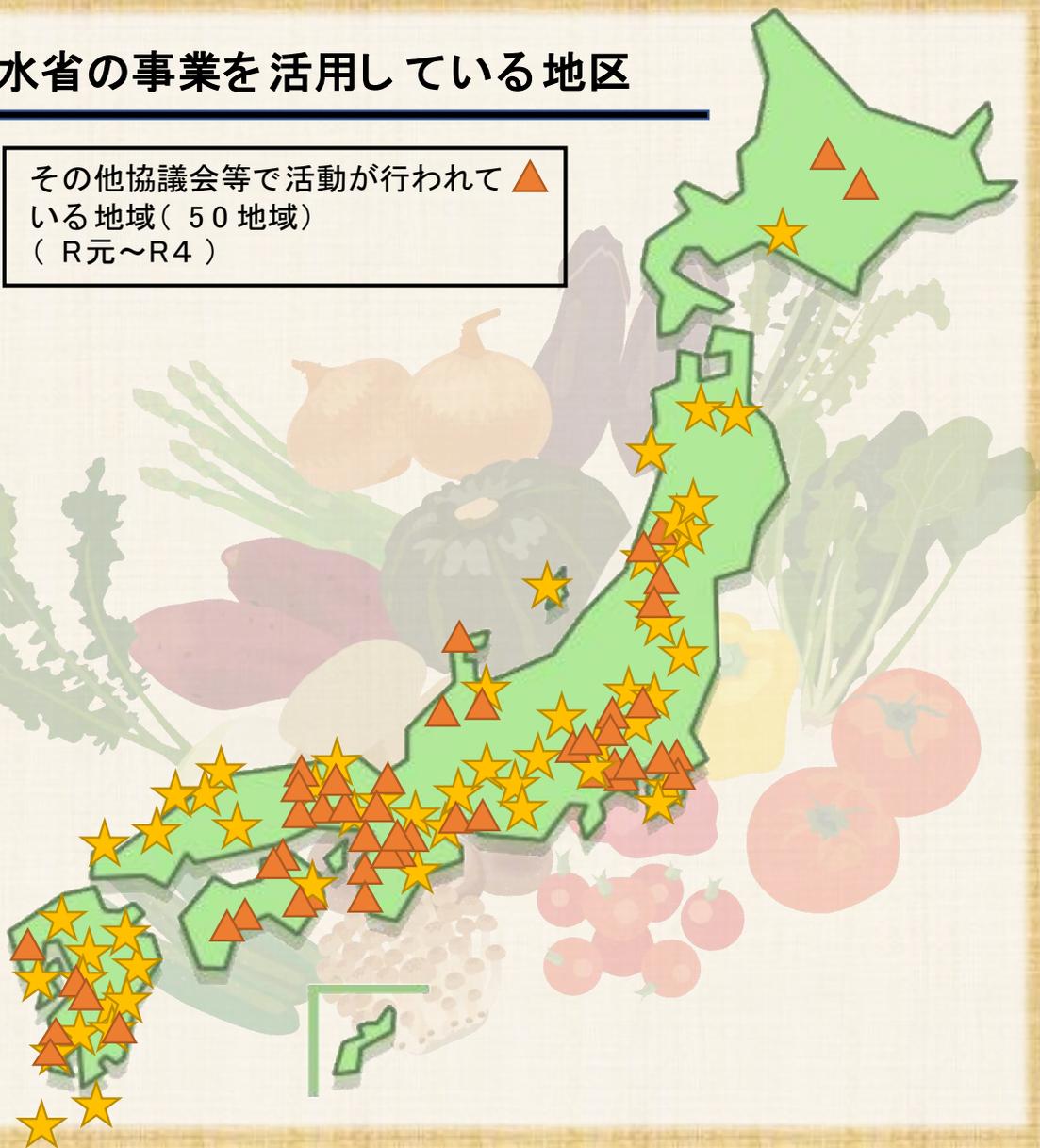
生産・消費が拡大する取り組みであれば、  
垣根なく事業が行える

# 有機農業の拡大に向けて農水省の事業を活用している地区

★  
みどりの食料システム戦略  
推進交付金事業を活用(54市町村)

北海道	安平町	兵庫県	豊岡市
青森県	黒石市		丹波市
	五戸町		丹波篠山市
秋田県	大潟村		養父市
山形県	新庄市		淡路市
	米沢市	奈良県	宇陀市
	川西町	島根県	浜田市
	鶴岡市		大田市
福島県	二本松市		邑南町
栃木県	小山市		吉賀町
	市貝町	広島県	神石高原町
	塩谷町	山口県	長門市
埼玉県	小川町	徳島県	小松島市
千葉県	木更津市	福岡県	うきは市
	佐倉市	長崎県	南島原市
神奈川県	相模原市	熊本県	山都町
新潟県	佐渡市		南阿蘇村
富山県	南砺市	大分県	臼杵市
山梨県	北杜市		佐伯市
長野県	松川町	宮崎県	綾町
	辰野町		木城町
岐阜県	白川町		高鍋町
静岡県	掛川市	鹿児島県	南さつま市
愛知県	東郷町		南種子町
	南知多町		湧水町
三重県	尾鷲市		徳之島町
滋賀県	甲賀市		
京都府	亀岡市		

▲  
その他協議会等で活動が行われて  
いる地域(50地域)  
(R元~R4)



# 地域のメールでの聞き取り結果

東北	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食における有機水稻及び有機農産物の活用に向けた課題</li> <li>・有機農産物の流通・加工・販売に向けた指導、助言</li> </ul>
東北	栽培管理・栽培技術・加工から流通までの流れ
東北	地域内での有機農産物の付加価値向上とマーケットの拡大について等
関東	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有機農産物の栽培技術について</li> <li>・有機農産物等の販売戦略について</li> <li>・有機農業と有機農産物について、消費者の理解を深める取り組み 等</li> </ul>
関東	地産地消有機農産物の地域内物流の効率化について
関東	販売 生産 里山の生き物評価？など
中部	販路、加工、運送について & 果樹での有機栽培におけるアドバイス
中部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有機農業に関心の高い働き手の確保の方法</li> <li>・生産性を上げるための働き手のモチベーションの高め方</li> </ul>
北陸	直売所に減農薬、無農薬の野菜が出荷されているが、整理されていない。 マーケティング、標記など販売面の助言。
中部	有機農産物の作付け計画からの生産調整手法、研修生を含めたチーム作り他
中部	流通の効率化の手法
関西	栽培方法及び出荷先について

関西	ニーズ調査の結果を踏まえた、オーガニック茶の販売戦略の立て方
関西	有機農産物の消費拡大に向けて行政が行えることとはなにか
関西	ニーズの高い栽培作物のマーケティング手法
関西	共同出荷グループの集出荷及び物流の一元化、有機野菜の給食への導入について
関西	有機栽培の技術について
中国	市場調査、流通、PRなどマーケティング全般
四国	販路拡大、給食への無農薬米提供に関する調整事項の解決方法 等
四国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食の有機農産物導入のアプローチを意見交換する場合にアドバイスができる方</li> <li>・各農家の有機農産物の集積、販売するツールやサポートについて情報提供できる方</li> <li>・農家の経営改善</li> </ul>
九州	学校給食への有機農産物導入について
九州	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有機農業者を増やす仕掛けづくりについて(安定した所得の確保の課題解決)</li> <li>・地元農産物販売所や学校給食、商工会など地域内での流通及び加工分野について</li> <li>・住民を巻き込んだ有機農業応援イベントについて</li> </ul>
九州	国産有機アーモンドを活用した加工品等の生産や販売経路の確保、その他有機農産物を活用した製品の製造や販路確保について

# 地域のメールでの聞き取り結果

東北	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食における有機水稻及び有機農産物の活用に向けた課題</li> <li>・有機農産物の流通・加工・販売に向けた指導、助言</li> </ul>	関西	ニーズ調査の結果を踏まえた、オーガニック茶の販売戦略の立て方
東北	栽培管理・栽培技術・加工から流通までの流れ	関西	有機農産物の消費拡大に向けて行政が行えることとはなにか
東北	地域内での有機農産物の付加価値向上とマーケットの拡大について等	関西	ニーズの高い栽培作物のマーケティング手法
関東	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有機農産物の栽培技術について</li> <li>・有機農産物等の販売戦略について</li> <li>・有機農業と有機農産物について、消費者の理解を深める取り組み 等</li> </ul>	関西	共同出荷グループの集出荷及び物流の一元化、有機野菜の給食への導入について
関東	地産地消有機農産物の地域内物流の効率化について	関西	有機栽培の技術について
		中国	市場調査、流通、PPC、ドローン、AI、ビッグデータ
自治体からリクエストのあった支援内容が、必ずしも地域の課題や生産側のニーズを的確に反映しているとは限らない。			
	生産性を上げるための働き手のモチベーションの高め方		・農家の経営改善
北陸	直売所に減農薬、無農薬の野菜が出荷されているが、整理されていない。 マーケティング、標記など販売面の助言。	九州	学校給食への有機農産物導入について
中部	有機農産物の作付け計画からの生産調整手法、研修生を含めたチーム作り他	九州	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有機農業者を増やす仕掛けづくりについて(安定した所得の確保の課題解決)</li> <li>・地元農産物販売所や学校給食、商工会など地域内での流通及び加工分野について</li> <li>・住民を巻き込んだ有機農業応援イベントについて</li> </ul>
中部	流通の効率化の手法	九州	国産有機アーモンドを活用した加工品等の生産や販売経路の確保、その他有機農産物を活用した製品の製造や販路確保について
関西	栽培方法及び出荷先について		

# 地域での有機農業推進の課題

- 有機農業の価値の理解
- 農村コミュニティの崩壊（小規模の価値）
- 地域有機物の資材化（肥料の確保）
- 新規就農者を受け入れる環境整備
- 慣行栽培農家との連携
- 有機農業の栽培実証圃場が少ない
- 県と地域行政・農家のコミュニティ
- 有機農業を農家が学ぶ機会
- 教育と絡めた有機学校給食と有機JAS

世の中が急激に変わってきている実感

# 国の施策や取り巻く環境

就農時（2010年）

- 有機農業の推進法が出来た

現在（2023年）

- みどりの食料システム戦略
- 人・農地プラン（新規就農者の受け入れ態勢強化）
- 次世代投資資金（研修→就農）
- 環境保全型直接支払い
- 有機JAS取得支援
- 有機農業転換 2万円／10a

# マーケット

就農時（2010年）

- 自然食品店
- 地道な発信・販促による提携  
野菜セット販売

現在（2023年）

- 一般量販店での有機コーナー
- ビオセボン28店舗（イオン出資）
- ECサイトを介したBtoCマーケット（ポケマル・食べチョク等）
- 地産地消オーガニックコーナー
- 大田市場にオーガニックを扱う卸業者（(株)大治）
- コロナ過で生協大盛況

# 食への意識変容

就農時（2010年）

- 環境と健康被害による運動
- 様々な知見によるネガティブキャンペーン

現在（2023年）

- グリーン購入法の特定調達物品にオーガニックが入る
- 環境省よりSDGs推進のアグリビジネスがオーガニック
- オーガニック学校給食導入急増
- 未病の観点から一般家庭にオーガニック選択
- エシカル消費やサステナブル消費の増大

# オーガニックの価値

- 自然・資源循環による低コスト化（脱外部エネルギー）
- 生物多様性・脱炭素
- 食の安全性に伴うトレーサ管理
- 文化・景観保全
- 未来への消費（投資）行動で次世代へ
- 公正と配慮のある世界観

# まとめ

私が有機農業を始めたころに比べると取り組む人、周辺環境、行政支援は雲泥の差というくらい変わっている。

本当に必要なのは国民全体でこのみどりの食料システム戦略等に関心を持ち、何を目的に何を達成し未来に何を描いているかを理解し、納得して行動できる環境づくりではないかと思う。

有機農業を推進することが使命でも目的でも無い。

日本という国が農業という生命産業をどう捉え、どのように活用して永続していけるかの瀬戸際なのではないか。

若い世代、これから生まれてくる子供たちにどのようなバトンを渡せるかを国民すべてがステークホルダーとして活動していきたい。

皆さんも一緒に行動していきましょう！